



GENE TECHNO SCIENCE

Mothers
証券コード:4584

株式会社ジーンテクノサイエンス

第20回定時株主総会 Q&A

第20回定時株主総会 Q&A

ご質問	回答
<p>腸管神経節細胞僅少症は患者数が少ない病気だが、この治療薬開発に関して将来は適応拡大の可能性は考えているのか？もし考えているとすればどういう疾患があるのか？</p>	<ul style="list-style-type: none"> ご指摘のとおり患者数が少ない疾患ですが、新たな治療法を待っていらっしゃる患者様のためにもこのプロジェクトを成功させることがまず重要です。また、歯髄幹細胞を用いた再生医療等製品の研究開発については、既に当社ウェブサイトにて開示済みの対象疾患に加え、歯髄幹細胞の神経・骨関連の疾患への適性を生かして、これらの分野における新たな疾患に対する取り組みを引き続き検討してまいります。
<p>ノーリツ鋼機とナノキャリアとの3社間の提携について具体的に何か動きはあるのか？ノーリツ鋼機は創薬から手を引いているようだが、ノーリツ鋼機との関係は？株主としてノーリツ鋼機が保有株を売却するのではと気になる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 提携の進捗状況については現時点では非開示とさせていただいておりますが、双方の強みを活かした事業シナジーを生み出せるよう適時協議を重ねるなど、良好な関係を継続しております。株式の保有方針については、当社からのコメントは控えさせていただきます。
<p>GBS-007の開発は順調なのか？また、中国の導出先Ocumensionは香港上場を予定しているようだが、原薬供給の予定はあるのか？売上のロイヤリティ収益だけだと利益は少ないのでは？また中国以外の海外展開についてまだ可能性はあるのか？</p>	<ul style="list-style-type: none"> GBS-007 については国内における第Ⅲ相臨床試験における最終患者の観察期間を終了しており、順調に進捗しております。 Ocumensionとの契約ですが、2019年1月31日に開示しておりますように当社及び千寿製薬は、本契約締結に伴い、Ocumension から一定の契約一時金を受領し、今後は開発段階に応じたマイルストーンペイメント及び上市後の売上高に応じたロイヤリティを受領する予定です。 中国展開におけるリスクとして、中国のバイオシミラーガイドラインの改正等が考えられますが、眼科領域に精通したメンバーを揃えるOcumensionであれば円滑に開発を推進してもらえるものと考えております。 海外展開の可能性は継続検討中です。

第20回定時株主総会 Q&A

ご質問	回答
Heartseedへの出資、具体的に動きはあるのか？	<ul style="list-style-type: none"> Heartseedについては現時点では非開示とさせていただきます。iPS細胞のみならず様々な研究をされ、順調に技術も成熟されてきておりますので、当社の将来の再生医療事業展開においても同社の技術を組み合わせた協業の可能性を引き続き探ってまいります。
JUNTEN BIOの誘導型抑制性T細胞が先駆け指定されたが、権利関係はどうなっているのか？	<ul style="list-style-type: none"> 権利関係の詳細については非開示とさせていただきます。
子会社のレムケアは具体的に何をしているのか？	<ul style="list-style-type: none"> 主に美容クリニック向けの培養上清の販売をしております。
JRM-001の治験について進捗はどのような状況か？	<ul style="list-style-type: none"> JRM-001の治験については、日本再生医療の子会社化以降、当社による支援を強化しており、承認申請に向けた取り組みをさらに加速させてまいります。
エア・ウォーターが歯髄幹細胞を用いた歯髄の再生医療を始めたが、競合となるのか？	<ul style="list-style-type: none"> 歯髄幹細胞を用いての再生医療とはいいまでも、その技術、対象疾患により棲み分けは可能であり、現段階で直接的な競合にはならないと考えております。また、現時点において、歯髄幹細胞を用いた再生医療の事業化を推進している企業は限られており、歯髄幹細胞に関する取り組みが注目されることは、潜在的な共同研究/事業化パートナーの関心を集めるという観点において、当社にとっても前向きな影響が期待されます。

第20回定時株主総会 Q&A

ご質問	回答
<p>新規バイオ事業で多くのパイプラインが立ち上がっているが、大きな収益になる（将来軸となるだろう）ものと、現時点で上市に最も近いと考えているものがあれば教えて欲しい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> GCT-101（口唇口蓋裂）及びGCT-102（腸管神経節細胞僅少症）については、既にパートナーとの取り組みが進んでおりますが、それ以外のパイプラインにつきましても、今後事業化に向けた取り組みを加速し、少しでも早く患者様に新たな治療をお届けできればと考えております。また、それぞれの疾患においてアンメット・メディカルニーズが存在しており、事業化の推進により、当社の重要な収益源として、当社の企業価値の最大化に貢献するものと考えております。
<p>新型コロナウイルスの影響はかなり長引きそうですが、その影響を受けると予想されることがあれば教えて欲しい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 業界全般として一部の臨床試験に遅れがでているという事実はありますが、弊社が関与する臨床試験については、現在直接的な影響は出ておりません。今後も新型コロナウイルスの当社事業への影響を最小限に留めるため、リスク管理体制を強化し、状況の変化に迅速に対応してまいります。
<p>赤字バイオ企業は将来の期待値を現在の価値に置き換えて買われるものと理解しているがどう考えているか。また、GTSとして怠りなくその期待値をマーケットに十分発信できていると考えているか？</p>	<ul style="list-style-type: none"> 当社のような赤字バイオ企業の株価は、将来業績への期待値を反映したものと理解しておりますが、当社のパイプラインの多くは極めて初期段階のものであり、投資家の皆様にはその価値を十分にご理解いただけていない状況であると認識しております。パートナーとの協働を基本とする当社のビジネスモデルから、現状の進捗及び売上規模、採算性等の将来見通しについてタイムリーに開示できないという事情はあるものの、今後、パイプラインの価値が正しく評価され、適正な株価形成につながるように、パイプラインの開発進捗のステージごとに積極的に情報開示を行い、その質、量を増やしてまいります。

第20回定時株主総会 Q&A

ご質問	回答
<p>腸管神経節細胞僅少症は九州大学との共同開発か。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 腸管神経節細胞僅少症の研究開発方針については、共同事業化パートナーである持田製薬との契約の関係上、具体的な回答は控えさせていただきます。
<p>JRM-001の開発が遅れたのはガイドラインが厳しくなったからとのことだが、問題は解決できるか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> JRM-001の臨床試験については、当社による日本再生医療の子会社化以降、当社による支援を強化しており、現時点では大きな問題はないものと認識しております。
<p>GTSの目指す方向性に、アジアの疾患とあるが、具体的に教えてほしい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> アジアの疾患について既に調査・検討は進めておりますが、現時点では開示できる段階にないため回答を控えさせていただきます。
<p>セルテクノロジーを子会社化したことによるGTSへの負担が大きいように見えるが、セルテクノロジーはいつから、どのような形でGTSに貢献していくのか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> セルテクノロジーに加え、日本再生医療の子会社化及び連携強化などによる相乗効果は既に現れておりますが、今後それぞれのパイプラインの進捗に応じて、収益への貢献がより顕著になるものと考えております。
<p>取締役の任期が2年から1年に短縮した理由について、医薬品の研究開発期間は長いため、1年で経営責任を果たせるのか疑問に思う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 取締役の責任を明確にし、経営環境の変化に迅速に対応できる経営体制の構築を目的としております。世の中のスピードに遅れることなく、各年、柔軟に、且つ、責任を持って経営にあたりたいと考えております。

第20回定時株主総会 Q&A

ご質問	回答
<p>新型コロナウイルスの治療法の開発は行わないのか。</p>	<ul style="list-style-type: none">• 当社でも検討を進めましたが、当社が保有するアセットには、現時点において、国内外で既に開発が進んでいる他の取り組みと比べ、より短期的に、または、より高い有効性や安全性をもって、新型コロナウイルス治療や予防に効果を発揮する可能性のある技術やシーズはないものと判断しております。• 一方で、当社の保有するタンパク作製技術などを活かした技術的なサポートが求められることがあれば、当社としてできる限りのサポートを提供する方針であります。• 現在の新型コロナウイルスを取り巻く医療業界の環境については、現状の感染拡大を鑑みて早期に治療法を確立することが求められています。そのための方法は大きく二つあり、一つは、他の疾患に対して既に承認されている安全性が確保されている医薬品を転用する方法であり、これらは主には有効性を確認すればよく、各国・各製薬メーカーは先ずこの戦略をとっているものと考えています。もう一つはワクチン開発となります。こちらも早期の開発が可能な新しい技術を用いたDNAワクチンが主流となっております。当社は特定タンパクを大量に作る技術を持っていますが、その技術のみでは迅速なワクチン開発は不可能であり、また、特定タンパクを使うワクチン開発は新薬開発同様の開発期間・費用が必要となります。これらの状況を踏まえて、当社としては現状のパイプラインに注力することが企業価値の向上に繋がると考え、経営資源を集中し開発を進めております。

株式会社ジーンテクノサイエンス



バイオで価値を創造するエンジニアリングカンパニー